

特定非営利活動法人
クリーンオーシャンアンサンブル

事業・会計報告書

2023年度 2023.4.1
/ 2024.3.31



Clean Ocean Ensemble

— ごあいさつ

新しい挑戦から始まる海洋ごみ問題解決の大きな流れ

特定非営利活動法人クリーンオーシャンアンサンブル（以下、クリアン）の活動に対し、温かいご支援・応援をいつもありがとうございます。

2023年度は、回収装置の実証実験成功、海洋ごみマップ開発、再利用のための連携先拡大等、活動を大きく発展させることができました。

個人的には、スタートアップコミュニティに入り始め、スタートアップの本場であるシリコンバレーでビジネスを体感し、起業家として成長できた1年となりました。

今まで出会えなかった人たちと出会い、アドバイスをいただいたり、意見交換することで活動や組織へ還元することもできました。

いつも支えてくれている小豆島の皆様と世界中の協力者・応援者のお陰で、仲間・応援者・予算も増え、組織的にも成長させることができた1年でした。

2023年6月に初めて自然の力を読み切って回収装置での海洋ごみ回収に成功しました。しかし、より効率的な回収のためには、漂流ルート・溜まるスポット・関連する自然条件調査が重要だと気づき、回収時点の海洋ごみの写真・位置情報・時間を記録できる海洋ごみMAPアプリの

開発に着手しました。

ビーチクリーン活動も分別・調査・再利用連携を強化し、回収量と再利用量の定量化を進め、数値での発信を意識してきました。

海洋ごみ再利用を増やすために、地元漁師さんの使われていなかった漁具倉庫を貸していただき、拠点を強化しました。

また、それぞれのリサイクル技術で海洋ごみ問題に挑戦している日本各地の企業・団体との連携も増やすことができました。

環境教育活動では、小豆島内の小学校へのお出前授業、企業への現場視察案内、一般向けのワークショップなども行うことができました。

海洋ごみ問題という大きな問題に対して、まだまだできてないことも多い未熟な団体ではありますが、本当に多くの人に支えられ、活動を継続・発展することができています。心より感謝申し上げます。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

Greeting

特定非営利活動法人クリーンオーシャンアンサンブル
代表理事 江川裕基



Contents

1 ごあいさつ

Vision
Mission
Value
行動指針

2 海洋ごみ事業

Clean up system (海洋ごみ回収装置)
Effect measurement (効果測定)
Marine debris map (海洋ごみMAP)
Clean up activities (海洋ごみ回収活動)
Transporting and disposing (運搬と処理)
Sorting and weighting (分別と計量)
Recycling and upcycling (再利用と再資源化)
Research (調査)
Tool (調査機材)
Result (結果)

3 環境教育事業

Education (講演・講義)
Exhibition (展示会)
Workshop (ワークショップ)
Result (結果)

4 会計

2023年度 活動計算書
2023年度 貸借対照表
2023年度 財産目録

5 受賞&メディア実績

Award & Recognition (受賞)
Media (メディア)

Vision

海洋ごみゼロの世界

Mission

長期的かつ持続可能な海洋資源利用の実現のため、
革新的な回収技術開発やビジネスモデルの確立、
海洋ごみの新たなビジネスモデルの構築と
海洋ごみ低減に向けた回収システムの構築に貢献する

行動指針

大胆な発想をしよう

まずは自ら手と足を動かして形にしよう

早く失敗し学びを得よう

より多くの人を巻き込んでいこう

正々堂々といこう

仲間を信頼し助け合おう

スピード経営

Gui

Value

Break through

突き抜けていこう!

Work as a Team

チームで進もう!

Respect science, try new technology

科学を尊重して、新しい技術を試していこう!

Hand down great inventions to future generations

偉大なる発明を後世に伝えよう!

- 目標設定と細分化を習慣にしよう
- 現場の一次情報を尊重しよう
- 研究と開発の一体化
- 仲間に関心を持とう
- 重たい業務はチームで分担して支え合おう
- 難しい時は遠慮なく仲間に頼ろう
- その業務が得意な人を巻き込んでいこう
- 気づいたことは遠慮なく共有して、泥臭いことにも積極的に取り組もう
- シェアする文化・リアルタイムの可視化を進めよう
- リスクを恐れず、失敗を奨励しよう
- ルールは守り、都合が悪い時は正直に直ぐ伝えよう
- コミュニケーション・対話を重要視しよう
- 事実とデータに基づき判断しよう
- 優先順位をつけて行動しよう

delines for action

2

海洋ごみ事業

Marine debris

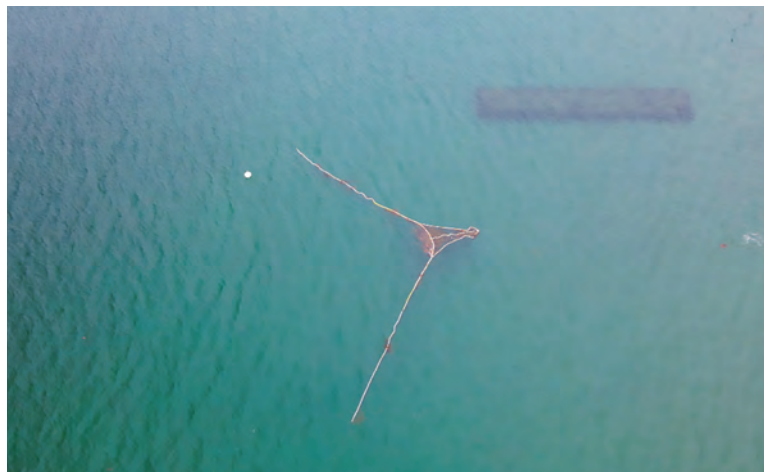


Clean up system

海洋ごみ回収装置

2023年度は、海洋ごみ回収装置の4号機、5号機、6号機の実証実験を行うことができました。昨年に引き続き、海洋ごみが溜まるエリアに海洋ごみ回収装置を設置して、自然の力を利用した海洋ごみ回収実証実験を3回行いました。

海外の先行事例を参考に、地元漁師と共に、どのようにすれば海洋ごみを回収できるかを話し合いながら、設計・製作・設置位置・角度・オペレーションの改善を続けました。回収装置の素材は、使われていない漁具を使うことで、実証実験コストを削減しました。



4号、5号、6号機の実験

第4回目の実証実験は2023年6月8日から6月27日までの20日間でした。4号機は初めて実証実験に成功することができ、潮流や風の方で約1.5Kgの海洋ごみの洋上回収に成功することができました。

この期間に様々なメディアに取り上げていただき、初成功のプレスリリースはPR TIMESプレスリリースアワードBest 101に選出され多くの方に私たちの挑戦を知っていただくきっかけになりました。

第5回目の実証実験は2023年9月20日から10月9日までの20日間で行いました。5号機では計量できない0.00Kg以下のプラ破片数個回収という結果でした。この時期はちょうど

冬型の気圧配置に変わったタイミングで海洋ごみの流れ方が変わり、小豆島の東側では東に向かわない流れに変わることを改めて確認できました。

第6回目の実証実験は2024年2月20日冬型の気圧配置真っ只中でしたが、それでも流れてくる海洋ごみを確実に捕獲する設計と設置位置・角度をテーマにした実証実験を行いました。

回収結果は計量できない0.00Kg以下と少量でしたが、浮力が高いペットボトルとビンの初回収に成功することができ、装置の完成に向けて、大きく前進しました。



回収結果

2023年度に回収できた海洋ごみは約1.5Kgと少量の回収結果でした。一方で浮力が高いペットボトルも回収ができるようになり、浮遊している自然物の回収量(再放流済み)も増加してきているため、洋上での回収方法確立に近づいた1年でした。

Effect measurement 効果測定

回収装置の効果測定をするために、調査スキームの強化をしてきました。

6号機からは、盧水計・ロガー・ペンダントでの計測と可能な限り毎日撮影を行うことで経過観測用の現場データを取得しました。

盧水計によって、実証実験期間に回収装置にどのくらいの水が通ったのかを計算することができます。

水の中にどのくらいのごみがあったのかを把握することで、汚染度とごみ回収量の割合を出すことができます。

また、ロガー・ペンダントを設置することで、海水温の違いから海上と海底の流れがどのくらい異なっているのかを調査しました。同地点に同期間設置することで、海洋ごみと相関する自然条件を絞り込みました。その結果、風・潮流・降雨量が大きな要因になっていることがわかってきました。



4号機成功の要因と5号機&6号機の失敗原因

- 4号機は設置期間が夏の時期で東の風かつ漂流しているごみ量も多かったため回収量が増えた。
- 4号機のごみ量を増やせなかったのは、ペットボトルのような浮力が高いものを捕獲できるような設計になっていなかったのと、転流での再放出を防止できなかったため。
- 5号機と6号機は冬型の気圧配置で西の風だったため、ごみの漂流ルートが夏と逆になることが多かった。
- 冬の海洋ごみ漂流量は夏と比較して多くなかった。



Marine debris map 海洋ごみMAP

回収装置の実証実験を繰り返して行く中で、見えない漂流ルート・ホットスポット、関連する自然条件の特定が重要だと気づきました。

海洋ごみの流れ方や溜まり方には複数のパターンがあり、これを解明していくことで効率的な回収や発生抑制につながると仮説を立て、回収海洋ごみをマッピングするアプリ開発に着手しました。回収時点の写真・位置情報・時間に加え、回収者・回収オーナーシップ・スポンサーの明確化ができます。また、回収海洋ごみデータは海岸・海上・海底の3つに分類することができます。

回収者と協力して海洋ごみ問題解決に向けて回収データを蓄積していきます。



Clean up activities

海洋ごみ回収活動

2023年度は合計756.83Kgの海洋ごみ回収ができました。

回収ごみの組成調査・分析をより強化しつつ、回収量も増やす活動として一般の方へ開放した形で小豆島坂手の多尾海岸を活動拠点にして月一回のビーチクリーンを実施しました。また、他団体と協力して他の場所での出張ビーチクリーンも試験的に行いました。

合計13回のビーチクリーン活動を行い、422.4kgの海洋ごみを回収することができました。また、放置されていた漁具鉛を330kgと漂流・海底ごみを4.38kg回収しました。



回収した海洋ごみ

756.83 kg

Sorting and weighing

分別と計量

2023年度は、鉄・鉛の項目を1種類追加して、10種類の分別・計量のデータを蓄積しました。

回収時点で袋ごとに分別回収を継続することで可能な限りマテリアル毎の計量を行ってきました。また、その後のリサイクル・アップサイクル工程にも繋げていきました。



分別・計量のデータ蓄積

10種類

Transporting and disposing 運搬と処理

2023年度は、小豆島の株式会社セブティーオートさんの車両貸出のご協力によりビーチクリーン後の輸送を大幅に改善することができました。

回収した海洋ごみの中でリサイクル・アップサイクルできるものは再利用しました。

再利用を増やすために、地元漁業者の使われていなかった漁具倉庫を貸していただき、まとめて輸送するための一時保管置き場にしました。

再利用できない海洋ごみは、町役場に処理いただきました。



Recycling and upcycling 再利用と再資源化

2023年度は、日本全国の海洋ごみリサイクル・アップサイクル業者との連携を開始しました。

硬質プラスチックは株式会社テクノラボさんのbuøyプロジェクトに参画させていただき、コースター等に、ガラス・ビンは有限会社ランドベルさんのスーパーソルという軽石に、鉛・鉄は小豆島金属さんへそのまま素材として引き取っていただき、ルアーはマリンスーパーさんに新たなルアーとして再利用していただきました。

2023年度のリサイクル・アップサイクル量は、合計351.67kgでした。



2023年度のリサイクル・アップサイクル量

351.67 kg

Research 調査

2023年度は香川大学さんとの共同研究が始まりました。瀬戸内海研究フォーラムin山口でのポスター発表において最優秀賞を受賞させていただくなど現場の蓄積データがアカデミックにも評価いただきました。

現場での海洋ごみ回収・再利用データの蓄積方法、回収技術開発の効果測定の見直し等、調査チームの強化に伴い全体の調査スキームが底上げされました。



Tool 調査機材

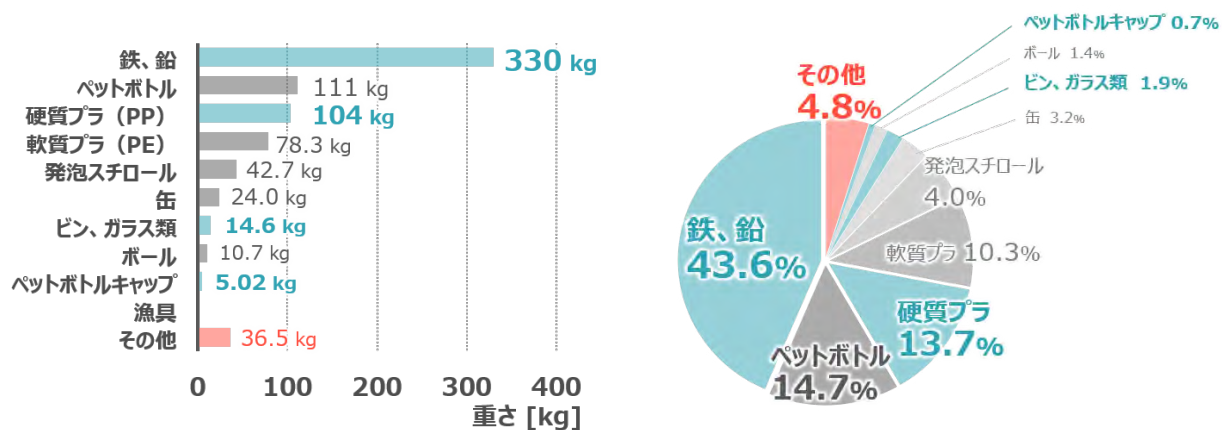
2023年度は調査機材も大幅に強化しました。

吊りはかり・定点カメラ・水中ドローン・気象サービスによる調査は引き続き継続しつつ、回収装置に通った水量を計測するための盧水計や、水圧を計測するロガー、水温や海底の光を計測するペンダント等を新たに導入しました。T

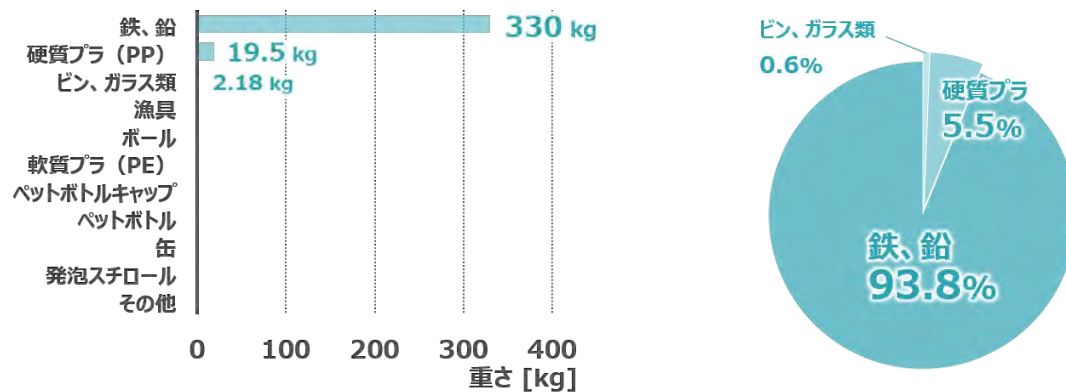


Result 結果

海洋ごみ回収実績



再資源化実績



※鉄、鉛の330kgは漁具倉庫整備時に回収&再資源化しました。

3

環境教育事業

Environmental education



Education 講演・講義

2023年度は21件の現場での啓発活動と12件のオンライン講義を行いました。

活動拠点である小豆島坂手地区での現場講演・講義、東京・高松等でのスタートアップピッチや昨年同様、小学校への啓発活動も行いました。

オンラインでは荒川クリーンエイド・フォーラムさんと講義を行ったり、他団体と協力していく案件を増やしました。



現場での啓発活動

21件

オンライン講義

12件

Exhibition 展示会

小豆島坂手の漁具倉庫を改装して今まで使った作品等の展示を開始しました。

実際の海洋ごみの現物や分別・洗浄・切断・色分け等の工程、製品を見学できるように整備しました。島外のゲストに海洋ごみの現場を体験していただけるようになりました。



Workshop ワークショップ

2023年度は、試験的に様々なワークショップを開催しました。

海洋ごみの基本を知る・学ぶワークショップから壊れた釣竿を新しい釣竿にアップするサイクルワークショップ等を行いました。

アップサイクルされた釣竿は、釣り場を大切にする釣り人が増え、釣りができる場所が守られていくようにという思いが込められています。



Result 結果

2023年度は、環境教育出前授業、アップサイクルワークショップ、現場ビーチクリーン等での啓発人数は、延べ586人になりました。

啓発人数

586人



4

会計

Accounting



2023年度 活動計算書

2023年 4月 1日から 2024年 3月 31日まで

特定非営利活動法人クリーンオーシャンクラブ

科 目	金 額		(単位：円)
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	10,000		
賛助会員受取会費	0		
		10,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	4,423,695		
		4,423,695	
3 受取助成金等			
受取民間助成金	3,105,953		
		3,105,953	
4 事業収益			
海洋ごみ事業	84,624		
環境教育事業	75,500		
		160,124	
5 その他収益			
受取利息	12		
雑収益	21,600		
		21,612	
経常収益計 (A)			7,721,384
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
役員報酬	128,000		
人件費計	128,000		
(2)その他経費			
業務委託費	3,700,000		
諸謝金	6,000		
印刷製本費	52,345		
会議費	107,150		
旅費交通費	902,627		
接待交際費	23,145		
車両費	102,218		
通信運搬費	17,930		
消耗品費	596,121		
修繕費	116,655		
地代家賃	81,000		
減価償却費	351,025		
保険料	139,151		
諸会費	78,250		
租税公課	46,830		
研修費	6,640		
支払手数料	186,326		
その他経費計	6,513,413		

事業費計		6,641,413	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	32,000		
人件費計	32,000		
(2) その他経費			
印刷製本費	4,956		
旅費交通費	27,089		
通信運搬費	47,452		
消耗品費	30,806		
研修費	1,000		
業務委託費	323,125		
地代家賃	22,792		
保険料	7,420		
租税公課	1,500		
支払手数料	242,961		
その他経費計	709,101		
管理費計		741,101	
経常費用計 (B)			7,382,514
当期経常増減額 (C) = (A) - (B)			338,870
III 経常外収益			
固定資産売却益		0	
経常外収益計 (D)			0
IV 経常外費用			
固定資産売却損		0	
経常外費用計 (E)			0
税引前当期正味財産増減額 (F) = (C) + (D) - (E)			338,870
法人税、住民税及び事業税 (G)			0
当期正味財産増減額 (H) = (F) - (G)			338,870
前期繰越正味財産額 (I)			1,336,011
次期繰越正味財産額 (J) = (H) + (I)			1,674,881

2023年度 貸借対照表

2024年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人グリーンオーシャンアンサンブル

科 目	金 額 (単位：円)	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	87,044	
普通預金	3,353,311	
現金・預金計	3,440,355	
売上債権		
未収金	4,490	
売掛債権計	4,490	
その他流動資産		
前払金	362,419	
前払費用	10,000	
仮払金	20,640	
その他流動資産計	393,059	
流動資産合計 (A)		3,837,904
2 固定資産		
有形固定資産		
車両運搬具	738,048	
工具器具備品	552,080	
減価償却累計額	1,069,293	
有形固定資産計	220,835	
無形固定資産		
無形固定資産計	0	
投資その他資産		
出資金	50,000	
投資その他資産計	50,000	
固定資産合計 (B)		270,835
資産合計 (C) = (A) + (B)		4,108,739
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	445,174	
預り金	1,947,341	
源泉所得税	41,343	
流動負債合計 (D)		2,433,858
2 固定負債		
長期借入金	0	
固定負債合計 (E)		0
負債合計 (F) = (D) + (E)		2,433,858
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産 (基本金) (G)		1,336,011
当期正味財産増加(減少)額 (H) = (I) - (G)		338,870
正味財産 (I) = (C) - (F)		1,674,881
負債及び正味財産合計 (K) = (F) + (I)		4,108,739

2023年度 財産目録

2024年 3月 31日 現在

特定非営利活動法人グリーンオーシャンアンサンブル

科 目	金 額 (単位：円)	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	87,044	
金券	10,000	
現金	77,044	
普通預金	3,353,311	
PayPay銀行	3,334,782	
住信SBIネット銀行	18,529	
未収金		
未収金	4,490	
前払金		
前払金	362,419	
プライストリーム・テクノロジー株式会社	362,419	
前払費用		
前払費用	10,000	
仮払金		
仮払金	20,640	
流動資産合計 (A)		3,837,904
2 固定資産		
(1)有形固定資産		
車両運搬具		
軽自動車 1台	414,860	
小型船舶 和船 1艘	323,188	
工具器具備品		
水中ドローン 1台	552,080	
減価償却累計額		
軽自動車	414,859	
小型船舶 和船	323,187	
水中ドローン	331,247	
有形固定資産計	220,835	
(2)無形固定資産		
無形固定資産計	0	
(3)投資その他資産		
出資金	50,000	
投資その他資産計	50,000	
固定資産合計 (B)		270,835
資産合計 (C) = (A) + (B)		4,108,739
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	445,174	
前受金	1,947,341	
預り金	41,343	
流動負債合計 (D)		2,433,858
2 固定負債		
長期借入金	0	
固定負債合計 (E)		0
負債合計 (F) = (D) + (E)		2,433,858
正味財産 (G) = (C) - (F)		1,674,881

5

受賞&メディア

Awards & Recognitions / Media



Awards & Recognitions 受賞

瀬戸内海研究フォーラムin山口 最優秀賞

始動 Next innovator 2023 シリコンバレー選抜

プレスリリースアワード 2023 Best101

香川ビジネス&パブリックコンペ2023 パブリック部門グランプリ

国連開発計画 Social Innovation Challenge, Japan2023 観客賞

Media メディア実績

毎日新聞

Fm yokohama Kiss & Ride

NHK ホット四国!

朝日新聞 SDGs ACTION(2023.10.12)

竹中俊

LIFT合同会社 社会貢献

RICEメディア

COCOCOLOR EARTH

BAYFM78 THE FLINTSTONE

四国新聞

BS朝日「つながる絵本～for SDGs～」

海と日本プロジェクト

荒川ブラックスーツ団ちゃんねる

受賞

5件

メディア実績

13件

Merci beaucoup



ご支援、ご協力をお願いいたします

サポーター

月1000円～の寄付で海洋ごみ問題解決への挑戦を支援するマンスリーサポーターへのご参加をお願いいたします！



各種SNS等

フォローといいねで海洋ごみ問題解決への挑戦を応援する広報サポーターへのご参加をお願いいたします！



特定非営利活動法人
クリーンオーシャンアンサンブル
<https://cleanoceanensemble.com>

〒761-4425 香川県小豆郡小豆島町坂手甲985番地
Tel: 070-8360-9815
Mail: info@cleanoceanensemble.com